

令和3年度 村上市立神納小学校の学校経営方針

1 はじめに

神納小学校は、旧神納小学校と神納東小学校、西神納小学校が統合し、令和2年4月に開校しました。それぞれが地域とともに育つ学校として充実した教育活動を展開してきました。また、この神納地域には豊かな環境や風土、伝統により培われてきた尊い気質があり、住民に脈々と受け継がれてきました。そのことが、例えば、責任感が強いこと、優しく思いやりがあること、従順で協調性があることなど、子どもたちのよさにつながっているものと受け止めています。私たちはそのことに感謝するとともに、継続して地域のよさを引き継いでいこうと考えます。

学校は、子どもたちの「知・徳・体」のバランスの取れた成長を目指し、教育活動に取り組んでいかなければなりません。新しい学校でも地域とともに積み上げてきた実績をさらに発展させ、全教職員が一丸となり、信頼される学校づくりに努めます。

2 社会的背景から

グローバル化や情報通信技術の進展、少子高齢化など、社会は急激に変化しています。子どもたちには、今後の予測困難な時代を生き抜くために、必要な力を身に付けさせなければなりません。従来の基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、思考力・判断力・表現力などの育成や学習意欲の向上、多様な人間関係を結んでいく力や習慣の形成など、たくましく生きていく様々な力が求められています。さらに、子どもを取り巻く状況の変化に加え、複雑化・困難化した課題も山積しています。

このような背景をもとに、新しい神納小学校は新しい時代の子どもたちの未来を構想し、学校の教育力・組織力をより効果的に高めていきます。

3 村上市の教育基本計画から

市は教育基本目標として、「ここで生きることに自信と誇りをもち、自らの進路を切り拓いていくことのできる実力（知力・気力・体力・徳性）を備えた子ども」を目指す姿として掲げています。

学校には、この地域で育った子どもたちが、愛着と誇りのよりどころとしての郷土愛を育てていく役割があると考えます。さらに、市の「郷育」推進の中心である「地域の子どものみを地域のみんなで育てる」という視点を受け止め、より高い教育の成果を目指していかなければなりません。そのために、家庭や地域とより一層連携・協働して教育活動に取り組んでいくことを推進します。

4 働き方改革と目指す教師像

子どもたちにとって楽しい学校、家庭にとって子どもを通わせたい学校でなければなりません。その実現には教職員一人一人の力を集結することが必要であり、心身ともに健康な教職員の存在が不可欠となります。

そのために、学校全体で働き方改革を進め、教職員の仕事と生活の調和・調整を目指し、教職員の日常が充実したものとなるよう取り組んでいきます。そのことが、家庭や地域とともに歩む信頼される学校につながるものと考えています。

《働き方改革の視点》

- ① 教職員の創意工夫や特長を生かすとともに、教材等の共有化を図る。
- ② 学校行事や教育活動、校内諸会議等の見直しを行う。
- ③ 家庭や地域の理解と協力を得る。

5 教育目標と重点目標

(1) 教育目標

いきいきと あたたかく たくましく

(2) 重点目標

- ① 確かな学力～主体的・対話的で深い学びの実現（知）
- ② 豊かな心～思いやり・感謝の心の育成（徳）
- ③ 健康な心と体～体力向上と望ましい生活習慣の定着（体）

6 経営の具体

(1) 重点課題について

① 確かな学力 『主体的・対話的で深い学びの実現』

- ・ 子どもの思考力・表現力の育成を図るために、主体的に考え、仲間と学び合う授業を実践します。
- ・ 基礎学力の定着を図るために、全校テスト等を実施するとともに、個に応じた指導にも力を入れていきます。
- ・ 家庭学習の習慣化など望ましい学習習慣を身に付けさせるために、家庭学習強調週間を計画的に実施するとともに、家庭と連携していきます。

② 豊かな心 『思いやり・感謝の心の育成』

- ・ 思いやりの心、感謝する心を育てるために、あいさつの励行や言葉遣い、他者との関わりなどを重視した指導を行います。
- ・ 関わり合う力の育成を目指し、縦割り班活動及び異学年交流を実施し協調性を育てます。
- ・ 「チャレンジ精神」のもと、学習面、運動面、人間関係の交流の場において、強い意志をもち、進んで取り組もうという態度を育てます。

③ 健康な心と体 『体力向上と望ましい生活習慣の定着』

- ・ 基礎体力の定着を図るために意欲を高め、達成感、充実感をもたせる授業を実践します。
- ・ 基本的な生活習慣の定着のために、食育及び健康に関する指導の充実を図ります。
- ・ 体力の向上、健康の増進を目指し、学校と家庭や地域が子どもたちの生活実態に視点を当てた情報の共有を行います。

(2) 家庭や地域との連携・協働について

課題解決のためには学校と家庭や地域の連携が欠かせません。学校は家庭や地域にも利益が生じる活動を模索し、「協働」という双方向の関係をつくっていきます。特に、授業や学校行事などの具体的な場において、学習ボランティアの活用や地域に向けた発信を積極的に行い、家庭や地域の要請に応えることができるよう取り組んでいきます。